



市川レポート

次期FRB議長候補11人の顔ぶれ

- トランプ氏が次期FRB議長を早期に指名する考えを示すなか11人の候補者の名前が報じられる。
- 次期議長の選定はベッセント氏が主導、候補者と面接し最終候補者リストをトランプ氏に提出へ。
- 10月か11月に指名ならば過去に比べて異例の早さに、次期議長の人事動向は引き続き要注視。

トランプ氏が次期FRB議長を早期に指名する考えを示すなか11人の候補者の名前が報じられる

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長は、2026年5月に議長としての任期を満了します。トランプ米大統領は、これまでパウエル議長に利下げを求める発言を繰り返しており、8月13日には、次期FRB議長候補を3、4人に絞り込み、少々早めに指名する考えを示しました。候補者として、米国家経済会議（NEC）のハセット委員長やウォラーFRB理事、ウォーシュ元FRB理事の名前は、早い段階から報じられていました。

このほか、経済学者のサマーリン氏とブラード前セントルイス連銀総裁も候補者にあがっており、8月11日には、FRBのボウマン金融監督担当副議長とジェファーソン副議長、ダラス連銀のローガン総裁の名前も報じられました。さらに、8月13日の報道では、新たに米投資銀行ジェフリーズのゼルボス氏、リンゼー元FRB理事、米運用会社ブラックロックのリーダー氏も候補に入ったと伝えられ、候補者は11人に達した模様です。

【図表：次期FRB議長候補として報じられている11人の顔ぶれ】

氏名	プロフィール	氏名	プロフィール
ケビン・ハセット	経済学者。2017年から2019年まで、第1次トランプ政権で経済諮問委員会（CEA）の委員長を務め、大型減税を推進。	フィリップ・ジェファーソン	FRB副議長。経済学者で労働市場分析に強み。バイデン政権下で副議長に任命。
クリストファー・ウォラー	FRB理事。現在、早期利下げを支持しており、7月のFOMCでは政策金利据え置きに反対票を投じた。	ローリー・ローガン	ダラス連銀総裁。ニューヨーク連銀でアナリストとしてスタートし、バランスシート管理のトップ幹部に昇進。FRB内部の経験が豊富。
ケビン・ウォーシュ	スタンフォード大学フーバー研究所の特別客員研究員。元FRB理事で、政策スタンスはタカ派とされていた。	デービッド・ゼルボス	米投資銀行ジェフリーズのチーフマーケットストラテジスト。最近、FRBは政治的な存在と発言。
マーク・サマーリン	エコノミスト。ブッシュ（父）元大統領の経済顧問を務めた。政策立案経験が豊富。	ラリー・リンゼー	元FRB理事。ブッシュ（父）政権で政策立案特別補佐を担当するなど共和党政権で要職を歴任。
ジェームズ・ブラード	元セントルイス連銀総裁。最近、FRBの独立性が尊重されるなら議長就任の提案を受け入れると発言。	リック・リーダー	米運用会社ブラックロックのシニア・マネージング・ディレクターでグローバル債券担当最高投資責任者（CIO）。
ミシェル・ボウマン	FRB金融監督担当副議長。現在、早期利下げを支持しており、7月のFOMCでは政策金利据え置きに反対票を投じた。	-	-

（出所）各種資料を基に三井住友DSアセットマネジメント作成



次期議長の選定はベッセント氏が主導、候補者と面接し最終候補者リストをトランプ氏に提出へ

11人の顔ぶれは図表の通りですが、報道によると、ベッセント米財務長官が次期FRB議長の選定を主導し、より多くの候補者と面接した上で、最終候補者リストをトランプ氏に提出するとみられます。なお、ベッセント氏は日本経済新聞のインタビュー（8月7日）において、次期FRB議長に求める資質と、FRBの独立性について、自身の考えを明らかにしています。

ベッセント氏は、①市場の信認を得られる人物、②複雑な経済データを分析できる人物、③米連邦公開市場委員会（FOMC）のコンセンサスを得られる管理能力を持つ人物、④鋭敏に先行きを予測できる人物、を次期議長の条件にあげました。また、トランプ氏も（民主党左派の）ウォーレン上院議員も、金融政策に対して自分の意見を表明しているが、最終的にFRBの独立性は維持されていると述べました。

10月か11月に指名ならば過去に比べて異例の早さに、次期議長の人事動向は引き続き要注視

ベッセント氏は6月に、トランプ氏がFRB議長の後任を10月か11月に指名する可能性があるとの見方を示していました。なお、第1次トランプ政権において、パウエル氏は2017年11月に議長に指名され、議長続投はバイデン前大統領が2021年11月に決めました。いずれも翌年2月が任期切れであったため、同じタイミングなら次期議長の指名は2026年に入ってからでもおかしくはなく、10月や11月の早期指名は異例といえます。

議長は理事から選ばれるため、ウォラーFRB理事、ボウマン金融監督担当副議長、ジェファーソン副議長の中から指名する場合は昇格という形になり、それ以外の候補者の場合は、いったん理事を経てからとなります（8月8日に辞任したクグラー理事の後任は米大統領経済諮問委員会（CEA）のミラン委員長が2026年1月31日まで務める予定）。次期FRB議長の人事は市場の関心も非常に高く、引き続き動向を注視する必要があると思われます。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものであり、投資勧誘を目的として作成されたもの又は金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料の内容に関する一切の権利は当社にあります。本資料を投資の目的に使用したり、承認なく複製又は第三者への開示等を行うことを厳に禁じます。■当資料の内容は、当社が行う投資信託および投資顧問契約における運用指図、投資判断とは異なることがありますので、ご了解下さい。

三井住友DSアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第399号

加入協会：一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会